

会報 第23号

みなみあいづ

発行 令和5年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齊藤修一



彼岸花とお堂
(観世音大菩薩・只見町十島地区)

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第23号

みなみあいづ

発行 令和5年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一



復興只見線 と ひまわり
(キハ110形 キハ40系カラー)
(只見町蒲生)

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第23号

みなみあいづ

発行 令和5年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一



名勝 尾瀬塚
(檜枝岐村尾瀬沼大江湿原)

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第23号

みなみあいづ

発行 令和5年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一



霊峰 燧ヶ岳 標高2356m
(尾瀬 日本百霊山 14番目)

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

はじめに

公立学校退職校長会南会津支部長
齋藤修一

会報「みなみあいづ」第23号の発行に当たり一言ご挨拶申し上げます。今年度も南会津教育事務所長様、下郷町教育長様、郡小中学校長協議会長様、そして会員の皆様から貴重なご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

さて、今年度はコロナ禍からようやく脱出できそうになりました。懇親会は中止しましたが、現職・退職校長会合同研修会を開催することができました。お忙しい中ご講演くださった、前支部長 小林宗一様、只見町の斉藤咲子様には心より感謝申し上げます。おかげさまをもちまして大変有意義な研修会となりました。来年度は、懇親会も開催でき、現職の校長先生方と懇親を深めることができますことを期待しています。

とりわけ県大会郡山大会は、実に4年ぶりの通常開催となりました。中でも「体験発表」では小林宗一様に支部代表として「日本遺産 御蔵入り三十三観音を取材して」を発表していただきました。大変貴重な映像・画像は後世に残しておきたいものです。文化財保護の精神がにじみしており、大変心に残りました。

会報「みなみあいづ」は年に一度の発行ですが、会員の様子や支部活動の様子、会員の思いなどを知る上で大きな役割を果たしていると思いますので、今後とも読みやすく何でも語り合える会報にしていきたいと考えております。会員の皆様のご支援ご協力よろしく願いいたします。

目次

○ はじめに	目次				
○ ご挨拶	南会津支部長	-----	齋藤修一	P 1	
○ 新会員あいさつ	南会津町針生	-----	大桃豊	P 2	
○ 特別寄稿					
	南会津と剣道			P 3	
	県教育庁南会津教育事務所長	平山明裕		4	
	退職校長会運営ビジョン				
	「生成AI利用に関する暫定的な				
	ガイドライン」より				
	下郷町教育長	-----	湯田嘉朗	P5の1	
	郡小中学校長協議会会長	-----	我妻雄比古	P 5	
	あいさつ			6	
○ 支部会員から	二兎追うものは…	南会津町田島	----	山田明	P 7
	あれから	只見町黒谷	-----	吉津政一	8
	推し活	下郷町塩生	-----	室井榮子	9
	保護犬さくら	南会津町中荒井	-	星俊夫	10
○ 事務局から					
	栄えある受章だより	祝 米寿(星恒行氏)	春の叙勲(吉津政一氏)	P 11	
	県大会・郡山大会だより			P 12	
	合同研修会だより				
	趣味の活動 ~川柳俳句~			P 13	
○	編集後記				
	思い入れを表紙に			P 14	
	役員一覧			P 15	

ご挨拶

福島県退職校長会 南会津支部長 齋藤修一



今年度の春の定期総会におきまして小林宗一様の後任として支部長を仰せつかりました齋藤修一と申します。伝統と共に実績のあるこの組織の牽引役としての責任を考えますとはなはだ心配ではありますが、皆様方からのご指導ご鞭撻をいただきながらその任を果たして参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルスの猛威によりここ数年社会は様々な影響を受けてきましたが、当組織も例外ではありませんでした。予定の会合や親睦を深める交流会等々実施形態を変えて開催したり、中止とせざるを得ない状況でした。そうした中であっても皆様方からの様々なご提案やご協力をいただき細々ではあってもこの緊急事態を乗り越えてこれましたことに深く感謝申し上げます。

この感染も幾分下火になっているとはいえ第9波の懸念も専門家の方々から指摘されている状況になおあります。こうした状況を注視しながら可能な範囲で当組織の充実を図っていきたいと考えております。

当組織も様々な課題がありそれを解決していかなければなりません。当面の課題として、第59回福島県公立学校退職校長会会津大会が南会津支部担当で令和7年6月に御蔵入交流館で開催する予定であります。約300人の会員の方々県内各地より参加されます。

従来の会津大会は、会津4方部から実行委員を選出し、何度も会議を開催し準備をして参りました。しかし、反省として会議をもっと少なくできないか、大会をスリム化できないか等が出されておりました。そこで今回の大会は、

- ①南会津支部会員を中心に最少の実行委員会を組織する
- ②会議の回数を極力少なくする
- ③経費を可能な限り削減する

こうした目標を掲げ準備をしていきたいと考えております。しかし、これだけの大会を役員のみで対応することは不可能ですので会員の皆様方の積極的なご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方の日々のご健勝ご活躍と共に、当組織が皆様方のご協力により益々充実・発展できますよう祈念しましてご挨拶とさせていただきます。

退職してなお・・・

前 南会津町立桧沢小学校長 大桃 豊



この3月に退職し、新たに4月からいただいた職が「学力向上支援アドバイザー」である。県が学力向上を目的に新たに始めた事業の一つで、業務内容を端的に言えば、先生方の算数の授業づくりのアドバイザーといったところ。今現在は南会津町内4校を渡り歩いている。

現役時代と同じように教材研究が必要であることは言うまでもないが、最も頭を悩ますのは、目の前の教員にどう伝えるかである。伝えたいことはいつも頭の中に山ほど蓄積されている。しかし、男性、女性、若手、ベテラン、個々の性格など、人間を相手にして何かを伝えようとした時に、それらを見捨てることはできない。まして、プライドが服を着ているような教員が相手ではなおさらのこと。誰彼かまわず、ただ機械のように言葉を送信するだけならどんなに楽かと思う。

ドラマ「教場」でキムタクが演じた指導官、風間公親のように、相手が誰であれ、自分のスタイルと信念を押し通すことができたらと理想を抱いたりしてみるが、そんな傲慢さや神がかった自信など、端から私の中にあるはずもない。

出退勤の車中で、「この仕事は本当に私がうけてよかったのか」と自問自答しながら、ふと気づく。「管理職になった時も、教員になった時も、同じことで悩んでいなかったか」と・・・。

退職してなお、自分自身の自己肯定感の低さに呆れかえる。しかしまた一方で、この自己肯定感の低さと、自信の無さから来る不安が、それらを払拭しようと自己研鑽へと駆り立てる原動力であったりもする。



毎日のように前任校を「横目」で見ながら

南会津と剣道

福島県教育庁南会津教育事務所長 平山明裕



この4月から南会津教育事務所に赴任いたしました。雄大な自然、良質な温泉、見どころいっぱいの観光地、美味しい食べ物とお酒、そして温かい人柄。すばらしい土地で充実した日々を過ごしております。

3月に私の南会津教育事務所配置の報道が新聞に掲載されました。私は、これまで勤務したことのない南会津への赴任とあって、しっかりやっつけていけるか不安な気持ちをもっていました。一本の電話で不安な気持ちは、期待と安心感に変わりました。その電話の主は、南会津の友人でした。彼とは、中学校時代に県中体連の剣道競技の決勝で全国大会をかけて戦った間柄です。会場は奇しくも旧田島高校でした。彼からは、「防具忘れるなよ。稽古は週3回あるからね。楽しみに待っているよ。」というメッセージでした。あの決勝戦から40年が経過していますが、彼からの電話で長い時間と距離が一気に縮まった感じがしました。

南会津は昔から剣道がさかんで、強豪の道場や学校が多数あり、優秀な剣士を数多く輩出している土地です。私も幼少の時から何度も南会津で試合をし、指導者となってからもたくさん生徒を引率してきました。現在、彼が指導する道場で、月に何度かですが、小中学生といい汗をかかせてもらっています。

ここで、剣道のすばらしさ、奥深さについて紹介したいと思います。

剣道という競技は容易にイメージがつくと思います。剣道着に袴を着て、面・小手・胴といった剣道具をつけ、竹刀をもって打ち合うあれです。激しい気合と打ち合う竹刀の音は大変迫力があります。剣道は武道の一つです。武道とスポーツの決定的に違う点は、いわゆる「ガッツポーズ」がないことです。野球やサッカーのようにホームランを打ったり、ゴールを決めたりしたときに拳を高々と上げたり、卓球やテニスのようなネットをはさむ競技のようにポイントを取るたびに喜びを爆発させて声を上げたりすることはありません。打っても



打たれても静かに相手に礼をし、試合場をおります。対戦相手への敬意、礼節を大切にしているのです。もし、試合中にこれを破ると、打って取った一本は取り消され、無効となります。「打って反省、打たれて感謝」という言葉も剣道ではよく聞きますが、こんなところが他の競技にはないすばらしさだと感じています。



剣道は体力やスピードだけではなく、相手の心の動きを読み、呼吸を察し、打突の機会をとらえて打ち込みます。したがって、この50代半ばになった私でも、中学生や高校生に稽古をつけることができます。いくら往年の名選手といえども、陸上やサッカー、テニスなどで50歳を超えて高校生を打ち負かすことは容易で

はないと思いますが、剣道ではそれが可能です。実際私も大学を卒業したころに、70歳を超えた剣士にボコボコにされたことがあります。私は体力とスピードにまかせてどんどん打ち込みますが、まったく当てることができません。そしてよく見ると、その老人は1メートル四方の中をひらりひらりとかわしながら私を追い詰めてくるのです。私

が息を吸った瞬間、その老人に竹刀を落としそうなほど強烈な小手を打たれました。心から「参りました」と頭を下げた瞬間でしたし、「剣道は深いな」と感じた瞬間でした。

「50、60は鼻たれ小僧」と剣道界でもよく言われます。現在50代の私ももちろん鼻たれ小僧です。今後もこの奥深い剣道を少しでも自分のものにできるように、この南会津の地で多くの剣友とともに、稽古に励みたいと思います。



目指す姿：人生100年時代を健康で地域や社会のために進んで生き生きと貢献する会員・退職校長会

本会は、創立58年を迎え、これまで先人が築き上げてきた歴史と伝統を継承するとともに、さらなる発展と飛躍を目指し、課題解決に努め、加入会員の一層の拡大、会員相互の交流、生活の向上に努めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、ふるさとの復興と未来を担う子どもたちの教育環境のさらなる充実、学校支援に努めるとともに、地域における社会貢献活動等に資する支援活動の充実を図ってまいります。



生活の安定と

生きがいの追求

- 要望活動の充実
- 各種団体・各支部との連携

学校・現役支援

- 県教委・地教委との連携
- 校長会との連携
- 各学校への協力
- 教員の魅力発信

**社会貢献活動の充実
魅力的組織への成長**

- 市町村との連携
- 県教委・地教委への協力
- 教育施設等への協力
- 地域社会への協力

主な活動

双葉地区復興支援

- 復興予算獲得要望
- 加配教員・SC等の継続要望
- 県大会や諸活動への支援

会員の拡大

- 効果的・戦略的な広報
- 16支部との連携
- 会の魅力の積極的発信
- 未加入会員への再勧誘

思いに応える

変化に対応できる

発信力のある

持続可能な

重点目標

県事務局の活動の充実：評議員会・理事会・支部長会等の充実

デジタル化（DX）の一層の推進（HPの充実等） 教員の魅力発信 創立60周年記念事業準備
調査活動・広報誌「松風」の充実 社会貢献活動の活性化 第50回東北協議会福島大会準備

赤字は各支部でも取り組んでほしいこと

「生成 AI 利用に関する暫定的なガイドライン」より



下郷町教育委員会教育長 湯田嘉朗

文部科学省は令和5年7月4日、対話型人工知能（AI）「チャット GPT」等の生成 AI の利用について、「初等中等教育段階における生成 AI 利用に関する暫定的なガイドライン」を公表し、全国の教育委員会に通知した。使いこなす力を育てるのが重要だと言及しつつ、思考力への影響などの懸念を踏まえ、検証する姿勢を重視したものである。限定的な利用から始めることが適切であるとし、特に、小学生の利用については、慎重な対応を要請している。

生成 AI の技術革新やサービス開発が飛躍的なスピードで進展している中、教育現場においても、さまざまな活用のメリットを指摘する声がある一方、子どもたちが生成 AI の回答を鵜呑みにするのではないかなどの懸念も指摘されている。その一方で、児童生徒や教師を含め、社会に急速に普及しつつある現状もあり、一定の考え方を国として暫定的に示したものである。

生成 AI は、膨大な量の情報から深層学習によって構築された言語モデルに基づき、ある単語や文章を入力した後、次に来る単語や文章を推測し、「統計的にそれらしい応答」を生成するものである。更なる精度の向上も見込まれるが、生成 AI は発展途上にあり、回答には誤りを含む可能性が常にあり、時には事実と全く異なる内容や文脈と無関係な内容などが出力されることもある。生成 AI の回答は、あくまでも参考の一つに過ぎないことを認識し、最後は自分で判断するという基本姿勢が必要となる。そのため生成 AI を使いこなすには、指示文の習熟と一定の知識や真偽を判断する能力が必要となる。

今後、中高のモデル校を指定し、実践例を蓄積して改訂につなげるとしている。また、情報漏洩や著作権侵害などのリスクも考えられることから、子どもたちが学校外で生成 AI を使うことを考慮し、情報モラル教育の充実が更に求められる。

今回の「暫定的なガイドライン」によれば、利用規約を遵守することや生成 AI の性質やメリット・デメリットがあることを子どもたちに十分に理解させ、生成 AI にすべてを委ねるのではなく、自分の判断や考えが大切であることを指導する必要がある。さらに、子どもたちの発達段階を踏まえ、生成 AI の利用が可能か、学習指導要領に示す資質・能力の育成を阻害しないか、教育活動の目的を達成するのに効果的か否かなどの判断をしなければならない。そのために、教師にも一定の AI リテラシーが必要となる。

今、学校では、GIGA スクール構想を基盤として、児童生徒に「1人1台端末」と学校に「高速通信ネットワーク」が整備され、すべての子どもたちの可能性を引き出し、多様な人々と協働しながら社会変化を乗り越えられる人材育成を目指した「令和の日本型学校教育」が進められている。先生方は「個別最適な学び（個に応じた指導）」と「協働的な学び」を実践するため、日々の学習活動において効果的な活用方法を探りながら、主体的・対話的で深い学びを見据えた魅力ある授業づくりを進めているところである。

今後、生成 AI の有効な活用法を検証しつつ、子どもたちに AI 時代に必要な資質・能力を育てていくことを期待したい。

あいさつ

南会津郡小中学校長協議会長 我妻 雄比古

(下郷町立下郷中学校長)

令和5年度の南会津郡小中学校長協議会は、6名の新会員を迎え、3名の管内異動と1名の再任用を含め20名でスタートを切りました。

令和4年度末をもちましてご退職された大桃豊前会長におかれましては、強い使命感をもって本小中協議会を牽引し、本会の発展に大きく寄与されましたことに改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、令和2年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されてから3年あまり、感染症の猛威は衰えることなく、まん延防止等重点措置が適用され、各学校では状況に応じた様々な対応が求められました。

こうした状況が続く中、県小中校長会では「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」「学校は子どもたちの命と健康が輝く場所である」を合言葉に、各専門部会を中心に工夫を凝らし、できる限りの活動を展開してきました。

本会においても、児童生徒ならびに教職員の命と健康を守りながら教育の質を担保し、学びを保障するための学校経営は、まさしく本会の基本方針である「教育の今日的な課題解決のため、会員の知恵を結集し、組織的・計画的な活動の推進」を目指す取組そのものでした。

今年度の5月より新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、各種行事の開催や給食の黙食解除など、少しずつ従来の形に戻すことができました。

その一方では、長期にわたるマスクの着用が日常化したことにより、外すことに抵抗感を抱く児童生徒や教職員も多く、引き続き児童生徒や保護者に寄り添いながら、適切な学校行事等のあり方を模索していく必要性も感じます。

世界は今、ロシアによるウクライナへの侵攻という新たな課題を抱えています。

また、先行き不透明で予測困難な時代が到来してきているとも言われています。社会の劇的な変化に伴い、「教員不足や働き方改革」「部活動の地域移行」など、学校教育は様々な面で転換期にあります。

このように様々な困難が目の前にある中、学校の再開、防災教育、放射線教育の推進など本県が抱える課題、そして新学習指導要領の全面実施に伴う「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に努めていかなければなりません。

今後も校長会の「ネットワーク」「フットワーク」「チームワーク」を一層生かしながら地域に根差し、活力に満ちた学校経営に努めることが肝要です。

結びに、南会津郡小中学校長協議会の活動がより一層充実したものとなりますよう、お世話になった退職校長会の諸先輩方よりご指導を頂き、連携しながら協議会を運営して参ります。今後とも、ご支援とご協力くださいますようお願い申し上げます、あいさついたします。



二兎追うものは・・・

山田 明 (南会津町田島 在住)

原稿提出の期日を大幅に延長していただいて、今この原稿を書いています。なぜ提出期日を守れなかったのだろうかと考えたときに浮かんだのが“二兎追うものは一兎も得ず”という西洋の有名な諺でした。この諺を知らないわけでもないし、忘れていたわけでもありません。しかし今、二兎どころか四兎を追って捕まえようとしているような生活をしていたことが原稿提出の遅れだったことに気づいたのです。

①一つ目は、大正琴扇靖流のグループに属し、会津支部長の仕事をしていること。②二つ目は、田島に来られた観光客の方々を案内する『まちの案内人』の組織の代表の仕事をしていること。③三つめは、下郷町の大内宿の観光ガイドの仕事をしていること。④四つ目は、駒止湿原の食害調査などの仕事をしたり、案内をする『駒止湿原案内の会』に所属して活動していることです。

二兎追うものは・・・の諺の本来の意味は、一つの物事に集中せずに、欲張って二つの物事を上手くやろうとすると、どちらも失敗するという警告だそうです。

この警告に当てはめるなら、上記の四つの仕事を欲張って全部上手くやろうとするのは無理なことであり、それを承知で四つの組織に所属し活動していることは、全部上手くできるわけではないことになります。それでも所属しているということは、それらの仕事を、結果的に適当にしていたからかも知れません。

多忙だった最大の仕事は、創立18周年目の大正琴のコンサートを御蔵入交流館で9月9日(土)に開催するために頑張ってきたことかなと思います。

実は、平成27年に10周年記念のコンサートを開催し、次回は15周年を計画していたのですが、コロナ禍の影響で3年間開催できず、今年の18周年目の開催になった次第です。事務的な仕事はすれば終わりますが、大正琴の練習に終わりはありません。練習の成果がでて上手に演奏できるときもあれば、日ごろ上手く弾けていても本番当日にミスすることもあります。コンサート当日の演奏の出来はさておいて、この仕事も終わったので、仕事を後輩に譲り後継者を育てることによって少しずつ力を抜こうかなと考えています。

②から④の三つは相手から依頼があってするガイドのような仕事なので、依頼が来ても都合悪ければ断ればいいので、仕事は削減できそうな気がします。

男子の平均寿命の81歳を超えても、元気にいろいろな活動をしている後期高齢者もおられることも知っています。いろんな仕事をしているから元気でいられるんだと助言してくださる方もいます。その方々を見習い元気に長生きと活動をしたいものとも考えます。

でも前に立ちふさがる大きな理由は、なんと言っても年齢と体力です。平均寿命に近づけば終活もしなければなりませんので、健康でいられる間にする仕事は、私にとっては沢山ありますし、内容を考えると楽ではありません。

今年の12月に80歳になりますが、現在している四つの仕事は、出来れば止めたくないのだから、今している四つの仕事に軽重をつけようと考えています。

今年はこれを、来年はこれをしたという順序で行きたいと思います。それで残りの人生健康で楽しく生きれたらいいなと思っています。



「あれから」

只見町黒谷 吉津 政一

「あれからどうしていましたか？私も歳を取りました。
今でも昔の歌を、気づくと口ずさんでいます。
振り向けば幸せな時代でしたね。」
美空ひばり（AI歌唱）の一節です。

早いもので退職して10年が過ぎました。平成29年に「農業ボランティア」という題で寄稿し、二男とのトマト作りについて書きました。トマト作りも今年で10年目になります。現在も二男にあてにされ以前と同じように手伝っています。

雪の多い年はハウスの支柱が曲がらないように除雪し、春先には地下水を出して畑の雪を消しています。4月初旬に育苗棟の屋根かけ（ビニール張り）その後、残りの3棟も同じ様に屋根かけを行います。次に肥料をまき、耕します。4月下旬にはポットに土入れ、今年は3600個のポットに土を入れました。仮植え（小さい苗をポットに植えていく）は4月29日に南郷トマトの「みなみ」という品種1800本を植え、5月3日に「セレクト」という品種を1800本植えました。二男夫婦と私と二男の義父の4人で作業しました。慣れた作業なので両日ともほぼ午前中に終わることができました。この約1週間後、葉と葉がつかないように二男夫婦と私で苗広げも行います。そして、5月の後半に定植を行います。1棟に900本ずつ4日間かけて植えていきます。今回は1日約10人で定植を行いました。作業が終わってからの一服では健康に係る話や最近の出来事などいろんな話ができ楽しい時間を過ごしています。7月中旬から収穫が始まります。今年も忙しくなりそうです。

トマト作りの他にしているのは家庭菜園です。広い畑ではありませんが、ジャガイモ、キュウリ、ナス、トウモロコシ、スイカ等植えて楽しんでます。毎朝毎夕畑の作物を見てよく育っているか確認しています。ジャガイモやキュウリ、ナスは7月から食べ始めています。取れたての野菜は美味しく、体にいいような気がします。



丹精込めた南郷トマト

気分もよくなります。植木管理で特に大変なのが行っているのが、10月初旬から始めます。11月に入るとトマトの片付けが始まるのでその前に終わらせるためです。前庭の一番大きい松の木から初めます。立木の冬囲いが終わると鉢植えの植木です。2か所に分けて運び込み、板で囲って終了となります。

古希を迎え、植木の管理も少し負担になってきましたが、雪多い冬を乗り越えて多くの植木が春に花を咲かせます。心が和む瞬間です。人生も同じなのかも知れません。

次に植木の管理についてです。前庭には松、石楠花、桜が植えてあります。

家の後ろにも桜、石楠花、そしてドウダンツツジも植えてあります。その他鉢植えの松やサツキなど約50本の植木があります。父が残っていたものや私が購入したものなどで、思い出の詰まった植木もあり、枯れないように注意しながら管理しています。家庭菜園と同じように雨の降らない日は水をやります。夏の暑い日の夕方、植木に水をやると植木が喜んでいるように、冬囲いです。無理しないよ



庭の石楠花

推 し 活

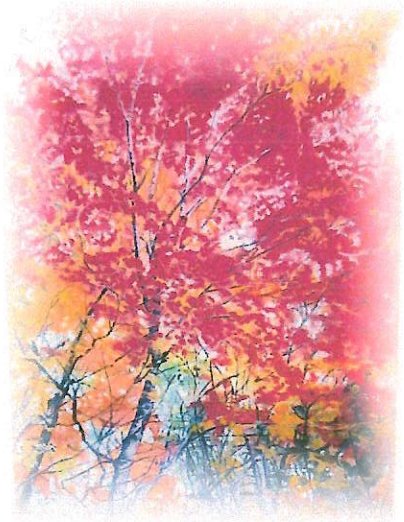
下郷町塩生 室井 榮子

目下、推し活中、「激推し」は自分。時間はたっぷりと、一日24時間使いたい放題である。時間的ゆとりが心の余裕にもなっているのだろう。「推し活」を楽しみ、「断捨離」しなくてすむ「もの」をせっせとため込んでいる。

「絵」もその一つ。描くのは苦手だが、描きたい思いが勝り、教室に通い修行中。絵筆がいうことをきかず、泣きたくなることも度々。それでも、描き終えたときは満足度100%。

登山に挑戦。鮮明に刻み込まれた三つの体験は、国体コースになった急登の三岩岳、11時間歩き続けた百名山ニセコの羊蹄山、登山の厳しさを教えられた月山から湯殿山への単独縦走。体力の限界まで挑戦できる自分に出会い、下山後の充実感はこの上ない。

こうして「断捨離」できない「もの」が増えていく。気持ちは若いつもりでも身体は正直。「これが老いというものなのか」を幾度となく実感するが、わが身を労りながら「推し活」する。90歳でヨガインストラクターになった方、90歳過ぎてもマックの現役従業員と、夢を膨らませて人生の先輩がいる。まだまだである。



下郷町観音沼の紅葉

医学博士安保氏の言葉、「無理せず、楽せず」

人生を楽しもう

保護犬 さくら

南会津町中荒井 星 俊 夫



5月22日、5歳の保護犬を引き取ることになった。夫婦でよくよく考えての決断だった。雄なのに、名前が「さくら」という。理由は不明、トイプードルとマルチーズのミックスで俗に「マルプー」と言う小型犬である。

初対面では、寂しそうに上目遣いにこちらを見ていたが、我が家に来た途端、吠えまくる。居場所が幾度も変わって、落ち着かないのだろうと思っていたが、変化はなし、とにかく吠える。後ろ足に触れたら、親指を噛まれて爪に穴が開いた。覚悟はしていたが、前途多難な生活の始まりだった。

2ヶ月が過ぎ、自分の考えを修正した。私は持病の難聴が進行しており、さらに強盗、傷害等の事件がそこら中で相次ぐ不安なご時世、「頼りになる番犬がいる。」と思えば、安心して生活することができる。

いつの間にか、我が家の「防犯係長」が誕生した。

毎日、朝夕の巡視(散歩)は、家の周りを3キロほど歩く。周囲に気を配りながら、リードを引っ張ることもなく、足下を私の歩幅に合わせて上手に歩く。

「お座り、待て」の待機動作も、気が向けばできる。シャンプー時は、頭からお湯をかけても動揺せず、大人しい。祇園祭の人混みでは、驚くほど静かに歩いた。幾つか良い所も見えてきたが、家では窓越しに誰にでも吠えまくる。

ある日、妻が「はいっ！」と差し出したのは、南会津町の広報誌8号。青少年の主張大会で、中学生の部、最優秀賞、田島中樋口万良子さんのテーマは、偶然にも保護犬の話だった。小さな命を尊び愛する家族の姿に、久々に心を打たれ胸がいっぱいになった…。改めてさくらの顔を覗きこんで二人で笑った。

暑い夏、今、防犯係長は課長に昇進し、夜間警備に備え、私の股間を枕に昼寝をしている。

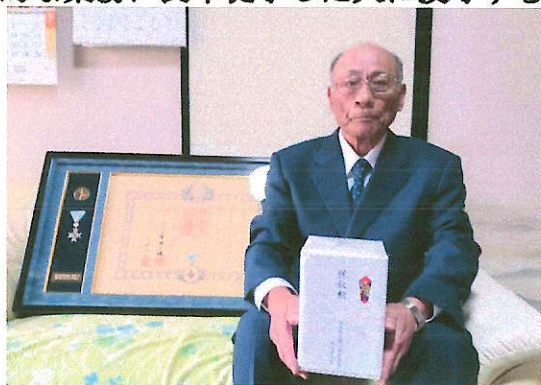
栄えある受章

祝 瑞寶雙光章 吉津政一氏 只見町黒谷在住

春の叙勲が4月29日付で発令され、県内からは72人が受章しました。各分野で顕著な功績がある人が対象の旭日章は20人、公務や公共的な業務に長年従事した人に授与する瑞宝章(瑞寶雙光章)は52人でした。

吉津先生は公教育(小学校・中学校)はもちろんのこと、平成7年度実施の国体競技の啓発活動へ開催にも深く関わりました。数々の実績・功績が認められ、誠におめでとございます。

現在の様子は「あれから」に載せてあります。



祝 米寿 星 恒行氏 下郷町豊成在住



下郷町豊成在住昭和10年7月1日生まれ令和5年7月1日に賀詞伝達記念品贈呈のため、齋藤支部長と星事務局長の2名で下郷町の自宅を訪問しました。この日は、恒行先生の高齢者叙勲(瑞宝双光章)が新聞に掲載された日でもありました。恒行先生は、昭和29年、檜原(現下郷)町立檜原小学校豊成分校で、約30名の児童の担任として教員生活をスタートされました。その後、江川小、旭田小、白河二小、荒海小を経て、赤沢小、荒海小の教頭、さらに旭田小、田島小の校長を歴任してこられました。中・高校生頃から運動に親しみ、在職中は体育科学習指導の研究や社会体育の振興に勤め、競技大会等の開設・運営に積極的に関わってきたとのお話でした。また、退職後も、下郷町社会教育指導員、下郷町教育委員、檜原区長など、地元への貢献にも努めて来られました。このように勤めて来られたのも、妻の助けがあつてのことと、感謝の思いがやさしいまなざしや奥様への心遣いにしっかりと感じられました。これからも健康に十分留意され、お二人で末永くお過ごしいただきたいものです。

県大会・郡山大会だより

第57回 県大会・郡山大会は、郡山ビューホテルアネックスで開催されました。新型コロナウイルス感染症で中止・延期からようやく4年ぶりの通常開催となりました。開会行事から講演「近代日本の礎 安積良斎」交流、体験発表、大会宣言等従来の内容で行われました。詳しくは「松風 第189号 郡山大会特集号」をご覧ください。

今回は「体験発表」が南会津支部の担当でしたので、前支部長の小林宗一様をお願いしました。「日本遺産 御蔵入り三十三観音を取材して」について貴重な映像と現地調査をもとにした体験談が印象深かったです。

第57回 県大会・会津大会が『御蔵入り交流館』で令和7年6月11日(水)に開催予定です。これから準備しなければなりませんので、南会津支部会員総出で取りかからなければなりません。会員の皆様のご協力とご支援をお願いします。



合同研修会だより



現職・退職校長会合同研修会は8月17日(木)に御蔵入り交流館多目的ホールで開催されました。事前の役員会では、第57回 県大会・会津大会(案)や要望事項(各町村長・教育長)等について話し合われました。

合同研修会は主催者挨拶の後、講演を演題「只見高校への留学、そして今の私」について町役場職員・斉藤咲子様が「山村留学生」から未来への選択に至るまでの実体験を話されました。家元を離れ若い女性が自立しようと努力する姿に胸を打たれました。

後半の体験発表は前支部長の小林宗一様に、郡山大会での発表を更に拡大し、より詳しく時間をかけて行っていただきました。他町村出身者が多い現職校長先生方には、初めて耳にする地名や言葉も多く戸惑いや不安もあったと察します。この地に生きることの素晴らしさと感動を分け与



えていただいた時間でした。準備から発表まで数年の実体験を時間を凝縮しての素晴らしい講義でした。ご苦勞に頭が下がります。



趣味の活動

「福島県老人クラブ連合会・元耀新聞」より

元耀新聞に投函されてゐる方もいらっひやいます。

「趣味の活動」 南会津町田島 湯田耕術

手前味噌 言われようとも 妻を褒め

檜枝岐村下ノ原 星 富子

味噌スープ 臍腑にしみる 術後朝

「只見俳句会」より

只見町亀岡 青藤修一

やつと春 戸を開け放ち 風よ来い

真夏日や 辛き煎餅 届きたる

「おくやま吟社 例会」より

南会津町田島 湯田耕術

新涼や 新割る音の 跳ね帰る

確かなる 生育見ゆる 青田風

南会津町池原 五十嵐利明

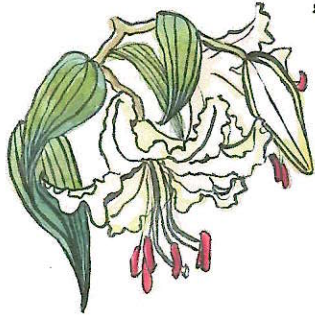
間引き菜の 歯ごたえよろし 朝餉汁

短夜や 夢途中の 目覚めかな

南会津町長野 星 弘明

電柵超え 甘藷掘る 野猿かな

夏草や 石碑を探す 村境



倶楽部活動へのお勧め

長い人生、誰でも趣味や特技を継続したいものです。一人より仲間がいると継続します。句会のようにお誘いがあるれば参加したいです。コロナ禍もようやく落ち着いてきたようです。南会津支部には正式なクラブ活動的なものはないですが、地域の「企画・イベント」に参加し、リフレッシュしたいですね。我が支部でも「グラウンドゴルフの集い」を予定しています。是非お近くの方を誘って参加しましょう。

編集後記

多くの方々の寄稿により会報「みなみあい」第二十三号を発行できました。心より感謝申し上げます。手作りの広報・多くの方々に読んでいただき、多くの寄稿を振るつた新型コロナウイルス感染症対策の中、快く・心温まる御寄稿に感謝申し上げます。お互いにたくさんの方々の元気をいただきました。

なお県退職校長会ホームページでは支部の広報紙もご覧になれます

表紙題字

故桑名完爾先生

表紙写真その他の写真

田中昭一



思い出を表紙に



名勝 尾瀬塚
尾瀬沼・大江湿原
伝説・尾瀬中納言藤原頼実の墓

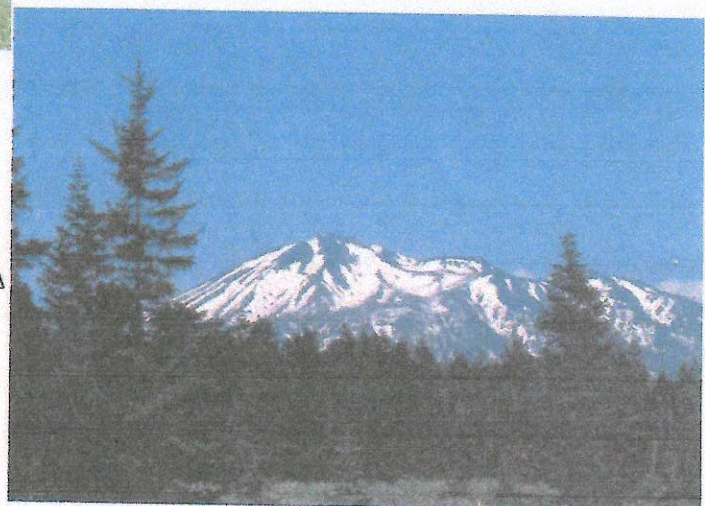


霊峰 燧ヶ岳
標高 2356m(東北以北 最高峰)
日本100霊山・14番目

復興只見線 と ひまわり
車両・キハ110系 キハ40系・カラー
大輪ひまわり・春林蔵



彼岸花 と お堂
観世音菩薩が安置されている
只見川を見下ろす十島地区に



役員一覽

顧問	星 富子 五十嵐利明 小林 宗一	広報部長	田中 昭一	第2方部	高橋 弘之
		クラブ長	星 賢二	第3方部	橋 成美
		方部理事		第4方部	飯塚 義雄 渡部 早苗
支部長	齋藤 修一	第1方部	室井 永治	事務局長	星 裕次郎
副支部長	星 弘明 玉川 邦夫 橋 成美 馬場 永好		山本 恭士 大桃 豊 星 俊夫	庶務会計	大塚 聖子
			湯田 恒弥	県評議員	齋藤 修一 星 裕次郎
監事	佐藤 誠一 川島 敬章	第2方部	大塚 聖子 佐藤 淳一	2年間お世話になります。 会員の皆様 ご協力ください。	